

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立鬼塚小学校	達成度(評価) A: 十分達成できている B: おおむね達成できている C: やや不十分である D: 不十分である
2 学校教育目標	笑顔いっぱいの学校づくり ～温かい心で認め合い、目標に向かって挑戦する子どもの育成を目指して～	

3 本年度の重点目標	①考える力：道徳を軸とし、他教科での言語活動の充実を図る。 ②心の力：家庭・地域と連携した体験活動や人権教育の充実を図ることで、豊かな心を育む。 ③体の力：体力向上を目指し健康教育を推進する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目							
重点取組			最終評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上 ○アンケートで交流活動に肯定的な回答をする児童80%以上	●全学級の共通実践として、いろいろな授業で交流活動を位置づけ、書いたり伝え合ったりする活動を積極的に取り入れる。	B	●保護者は、授業を工夫したり交流活動を取り入れたりしていると肯定的に回答している(90%)。しかし、教師の意識は78%にとどまっている。教職員は更なる向上を目指しているため、保護者の評価と比べて少し低くなったと考えられる。教職員は、更なる改善ができる余地があると考えられる。	A	●保護者アンケート「学校は授業の工夫をしたり、交流活動を取り入れたりして子どもの学力を伸ばそうとしていると思うか」の質問に90%が肯定的な回答であり、学校での取組が保護者に認められている。 ●コロナ感染対策を取りながらの交流活動は負担が大きいのと思うが今後も継続してほしい。
	○授業や朝の時間、家庭学習等を関連させ、基礎基本の確実な定着を図る。 ○読書の習慣化	○佐賀県学習状況調査において、知識・技能と読む領域で県の平均正答率以上 ○各学年の目標読書冊数達成85%以上	●基礎的基本的な知識・技能の定着を目指し、朝の時間や授業の中で練習問題に取り組む時間を確保する。 ●全校読書や隙間の時間の読書を推奨し、習慣化につなげる。図書館利用を促す工夫をする。	B	●読書をする環境が整っていないご家庭が多く、温度差が大きかった。児童なりに意識はしているが、目標達成までには行っていない。引き続き、家庭への啓発と児童への声かけを行っていく。 ●県調査の結果から、算数の学力が向上しつつある。引き続きのびっ子タイム以外にも、算数科では単元の始めに既習内容の確認を行い、学習内容の定着を図っている。	B	●読書環境については、引き続き家庭への啓発と児童への言葉掛けが必要である。 ●全校で静かに本を読む時間(読書タイム等)があればいいと思う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケートで、「自分について」問われる質問に肯定的な回答をした児童85%以上	●道徳科で伝え合う活動を取り入れ、互いの意見を尊重し、認めあえるような学級作りを取り組む。 ●人権教育(人権集会等)の全校的な取組の充実。 ●うち読カードを作り、「家族でタイム」として週末に道徳教材を家族で読んだり話したりする取組を呼びかける。	A	●人権集会を行い、LGBTQ+について学習し、児童生徒にとって新しい価値観に触れ考える機会を得ることができた。 ●「友達タイム」「みんなでタイム」がより充実するように、道徳科の授業づくりの工夫を行った。 ●「家族でタイム」の取組について、道徳日より学級通信で呼びかけを行ったが、保護者アンケートの結果は前年度より下がっていたので、家庭への啓発をより行っていく必要がある。	A	●「家族でタイム」は保護者との連携が図られておりよい取組だと思う。 ●保護者アンケートの結果が前年度より下がっているため、更なる家庭への啓発が必要である。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員95%以上 ○アンケートで「学校が楽しい」と回答する児童90%以上	●いじめアンケート等を通して児童の状況を把握し、いじめの早期発見や早期解決に取り組む。 ●生活指導協議会や児童理解研修会等で気になる児童の情報共有を行い組織として対応する。	A	●毎月、生活指導協議会を開き、気になる児童や不登校傾向の児童について、全職員で情報を共有し、対策の共通理解を図り、いじめの兆候が見られる事案があれば予防的な取り組みができるようにした。 ●気になる児童には、日頃から声かけや担任との連携を心がけて、早めの対応ができるように心がけた。	A	●気になる児童への状況について全職員で共通理解がなされており、いじめを見逃さない体制づくりができていると思う。 ●地域の大人が、学校外での子どもの様子などをもっと気にかけて学校と連携していけたらいいと思う。
	◎自ら夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○アンケートで「頑張りたいことや目標をもって、それを最後まで頑張っている。」と回答した児童85%以上	●地域の方との交流や体験活動、学校行事等でサッカーカード(目標・振り返り)を活用し、自分を見つめ直す機会を計画的に設定することができた。 ●桜カードに保護者や地域の方から感想や子ども達へのメッセージを書いていただくことで、自分や友達を多面的、肯定的にとらえる機会を作る。	A	●学校行事だけでなく各学年の取組でもサッカーカードを活用することで、保護者にも児童の頑張りを伝えることができた。 ●掲示板が、保護者からの桜カード、児童同士の桜カードでいっぱいになり、児童の自己肯定感を高める一助になった。	A	●児童の自己肯定感を高める取組がなされており、互いに尊重し合える支持的風土作りを継続していただきたい。 ●友達の事を知り、認める事ができるようにいろいろ工夫されていると思う。他人の事も大切にそれと同じように自分の事も大切にできる子どもに育ってほしい。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○休み時間に外で遊ぶ児童の割合80%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童80%以上	●天気の良い日に外で遊ぶことを奨励する。 ●運動会、持久走大会など体育的行事に向けた児童の自主的な取組の充実 ●全校的な立腰の取組 ●保健便り等の発行 ●感染予防をふくめた衛生管理の徹底 ●食育、給食指導の充実	B	●休み時間に外に出て遊ぶことは、1～3年生はおおむね達成できていたが、高学年になるにつれて休み時間に外で遊ぶ児童は少なかった。また、冬になるとどの学年でも教室で過ごす児童が増えたので、持久走大会の時期に合わせて体育委員会や保健委員会と連携して、外で遊ぶことを声掛けていくよかった。 ●「健康に食は大切」と考える児童は多いが、保護者アンケートでは88%だった。家庭への定着につながるよう全職員が意識して食育指導、給食指導に取り組む必要がある。 ●教師アンケートの結果から感染予防について徹底の必要がある。	B	●コロナ禍で体育的行事が制限されている中、子ども達が活躍できるように計画されている。 ●体の健康だけでなく心の健康も気にかけていく必要がある。
	○「安全に関する資質・能力の育成」	●児童の交通事故0(ゼロ) ○自転車の乗り方等について、「交通ルールを守っている」と回答する児童80%以上	●避難訓練や安全教室などの計画的な実施。 ●校区内の通学路や危険箇所の点検。 ●食物アレルギー児童の対応について職員研修を行い、危機管理に対する共通理解を図る。 ●休み時間の外遊びについて、場所や遊具の使い方等について安全面の指導を行う。	A	●2月の保護者引き渡し避難訓練まで、各種訓練は計画的に実施することができた。また、長期休業中を含めた日常生活の規則正しい生活についても指導を徹底し、児童の防災や安心・安全に対する意識が高まってきつつあると思う。 ●食物アレルギーの児童については共通理解を図ることができている。今後も引き続き行っていく。	B	●交通安全教室や様々な訓練で安心・安全に対する児童の意識は高まっていると思うがまだ時に自転車の乗り方等危険と思われる行為を目にする。自分の命だけでなく人の命を守る事も学んでほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●18時退勤日を設定する。 ●業務改善について職員からの意見を募り、職員全体での意識改革を図る。 ●職員全体でデータを整理・共有し、学年共通のお便りや教材を活用する等、業務の軽減を図る。	A	●保護者へのアンケート回答をformsを使って行うのは業務改善につながってよい。 ●現時点での時間外勤務時間の平均は前年度より2.2時間程度少なくなっている。1ヶ月45時間以内(4月～1月)の職員の割合72%。	B	●昨年度より時間外勤務時間の減少がみられる職員の意識は高まっていると思われるが、休日出勤の先生もおられることから更なる業務改善を行う必要がある。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・コロナ禍の中、できる限り通常の授業・学校行事に近い形での実施となるよう工夫しながら全職員で考えて取り組んだ。校内研究で取り組んでいる道徳教育については、道徳教育推進教師を中心に、互いの良さを伝え合い、認め合う道徳科の授業づくりに対する職員の学びが深まった。 ・学力向上については、基本的な知識・理解の習得に課題があるため、今後も全職員で取り組むこととする。また、タブレット端末を活用した授業づくりを進めるとともに家庭学習も定着させたい。 ・教職員の働き方改革については、職員の意識は高まりつつある。今後も教職員の意識改革と、疲労感軽減、働きやすさに向けて工夫する必要がある。
----------------	--